

Injury Alert (傷害速報)類似事例

高野豆腐の誤嚥による窒息 (No.49 ブドウの誤嚥による窒息の類似事例1)

事例	年齢：1歳7か月 性別：男 体重：9.6kg 身長：78.0cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	高野豆腐（表面にキャラクターの図柄）（写真）	
臨床診断名	異物誤嚥，窒息，急性呼吸不全，強直性けいれん，誤嚥性肺炎	
医療費	614,750円	
発生状況	発生場所	保育園
	周囲の人・状況	保育士，同クラスの園児と一緒に給食（昼食）時で、保育士は複数の園児の食事の世話（介助）をしていた。
	発生年月日・時刻	2016年2月23日 午前11時05分
	発生時の詳しい様子 と経緯	保育園での給食時に、約2×2cmに分割された高野豆腐が2つ一緒に提供され、一度に2つ口に入れた。保育士が注意して1つを口から出させた。残った高野豆腐を1-2回噛んだだけで飲みこんだあと、咳き込んだ。保育士が背中を叩打したが排出されなかったため、他の職員を呼んだ。微弱な呼吸はあったが、徐々に意識が消失し、11時15分ごろCPRを開始した。AEDを使用したけどショックの適応はなかった。その後救急隊が到着したときには自発呼吸があったが、強直のため開口できず、異物は除去できなかった。100%酸素を投与しながら搬送された。
治療経過と予後	異物の誤嚥から約35分後に当院に到着した。到着時には開眼していたが呼びかけに反応はなく、呻吟があり、四肢は強直していた。著明な陥没呼吸と皮膚色不良、末梢の冷感を認めた。フェノバルビタールを静脈内投与し、強直は消失した。酸素化不良、陥没呼吸の改善がなく、気管挿管し人工呼吸管理を開始した。気管挿管後に、口腔から高野豆腐が吸引により排出された。頭部CT写真では異常を認めなかったが、胸部CT写真で左肺虚脱と右肺上葉に浸潤影を認めた。人工呼吸開始後、速やかに呼吸状態は改善し、同日20時に体動がさかんになり偶発的に抜管されてしまった。再挿管を要さず、入院2日目には意識清明となり、歩行や経口摂取が可能となった。入院8日目の頭部MRIで異常なく、身体所見・神経学的所見に異常がないことを確認して退院した。 保育園では、規則により1歳6か月までは同じ高野豆腐を4分割して提供していた。本児は1歳7か月で、前月までは今回よりも小さく4分割されたものを摂取していた。本児は事故前から丸のみをする傾向があった。この保育園では、これまでに高野豆腐で窒息した事例はないとのことである。	



写真 患児の口腔から出てきた高野豆腐。

ほとんど咀嚼されていない。

キャラクターが記載された1辺が約2cmの直方体。

（キャラクターの顔が書かれているために一部加工した）

Injury Alert (傷害速報)類似事例

凍らせたこんにゃくゼリーの誤嚥による窒息 (No.49 ブドウの誤嚥による窒息の類似事例2)

事例	年齢：2歳5か月 性別：男児 体重：11.3kg 身長：85cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	凍らせたこんにゃくゼリー 購入時期は不明、 商品1袋あたりのサイズ：(幅×奥行×高さ)：160×60×230mm	
臨床診断名	誤嚥による窒息	
医療費	約80,000円(入院費込みの総額)	
発生状況	発生場所	友人宅
	周囲の人・状況	母、患児の友人、友人の母の合計4人、食卓で対象物を食べていた。
	発生年月日・時刻	2017年9月13日 午前10時45分
	発生時の詳しい様子 と経緯	患児は母とともに友人宅に遊びに行っていた。その際、友人の母から凍らせたこんにゃくゼリーを提供され、患児と友人、患児の母、友人の母の4人で食べていた。患児は椅子に座った状態で凍らせたこんにゃくゼリーを少量ずつかじっていたが、最後に残った塊を一気に飲み込んだところ、急に顔面蒼白となり、立ち上がり母親に抱きついた。声を出せない状態であり、患児の母が背部叩打を行い、5分程度で成人母指頭大のゼリーを吐出させた。吐き出したゼリーは全体の4/5程度の大きさであった。誤嚥直後から意識混濁がみられたため、救急要請した。救急隊現着時にも Japan coma scale (JCS) で I-1 と軽度の意識障害を認めていた。
治療経過と予後	当院到着時には意識は清明で、バイタルサインに異常を認めなかった。身体所見上、両肺に弱く rhonchi を聴取した。胸部 X 線検査で両側肺野にびまん性の透過性低下、胸部 CT 検査で両肺に広範なスリガラス様陰影を認めた。全身状態観察のため入院とし、誤嚥性肺炎を念頭に同日から静注抗菌薬による加療を開始した。入院2日目の時点で、発熱はなく全身状態も良好であったため、抗菌薬を内服薬に切り替え、退院とした。退院前に母親へ傷害予防教育を行った。 こんにゃくゼリー1つを容器から直接吸引する場合のみならず、凍らせた状態のこんにゃくゼリーを少量ずつかじっていた場合にも、本症例のように窒息のリスクがあることが示唆された。	